

研究成果展開事業  
大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型  
スタートアップ・エコシステム形成支援  
R4年度補正予算(EDGE-PRIME Initiative)  
実施報告書

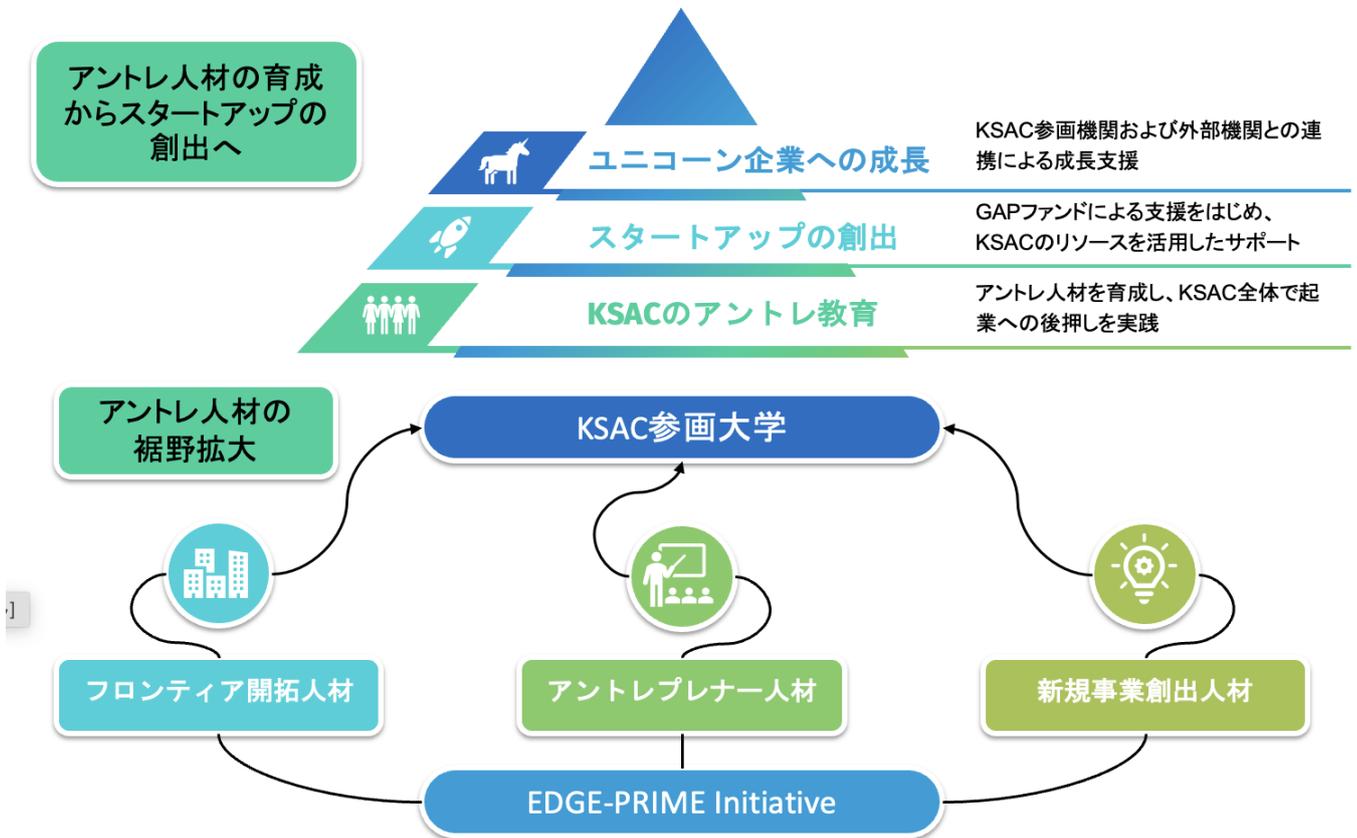
「京阪神スタートアップアカデミア・コアリション」

活動期間:2023年5月8日～2024年3月31日

## I. 活動の概要

京阪神スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)は、令和7年度末までに、世界有数のグローバル拠点となるべく大学発スタートアップを生み出し、その中からユニコーン企業を輩出する基盤の構築をめざしている。その目標達成に向けて、KSACのアントレプレナーシップ人材育成プログラムでは、社会のあらゆる分野で積極的に新しい価値創造にチャレンジし、独創的な夢の実現をめざすアントレプレナー人材の育成に取り組んでいる。

### 〈本取組の位置づけ〉



## II. 活動内容と成果

### 1. スタートアップ・エコシステム形成支援(当初予算)で目指すプラットフォームの姿への本取組による貢献

本事業においてはKSACがめざす人材像をベースにして、様々な属性や興味を持つより多くの高校生等が本事業に参加し大学発スタートアップ創出に繋がるよう、本事業で育む高校生等の3つの人材像を設定した。

設定した人材像ごとにプログラムを開発・運営するため、参画機関をそれぞれの特徴を活かせるように3つのグループに分類。それぞれのグループにリーダー機関を配置し、相互連携しながら取り組んでいく体制を構築した。

フロンティア開拓人材	好奇心や感性を磨き、未知のことにチャレンジして様々な手段で課題を突破していく人材
アントレプレナー人材	社会課題を発見し、自分事として解決していく方法を考える将来の起業家候補人材
新規事業創出人材	誰もが身につけておくべきIT知識や技術を活用して、世の中の課題解決をめざす人材

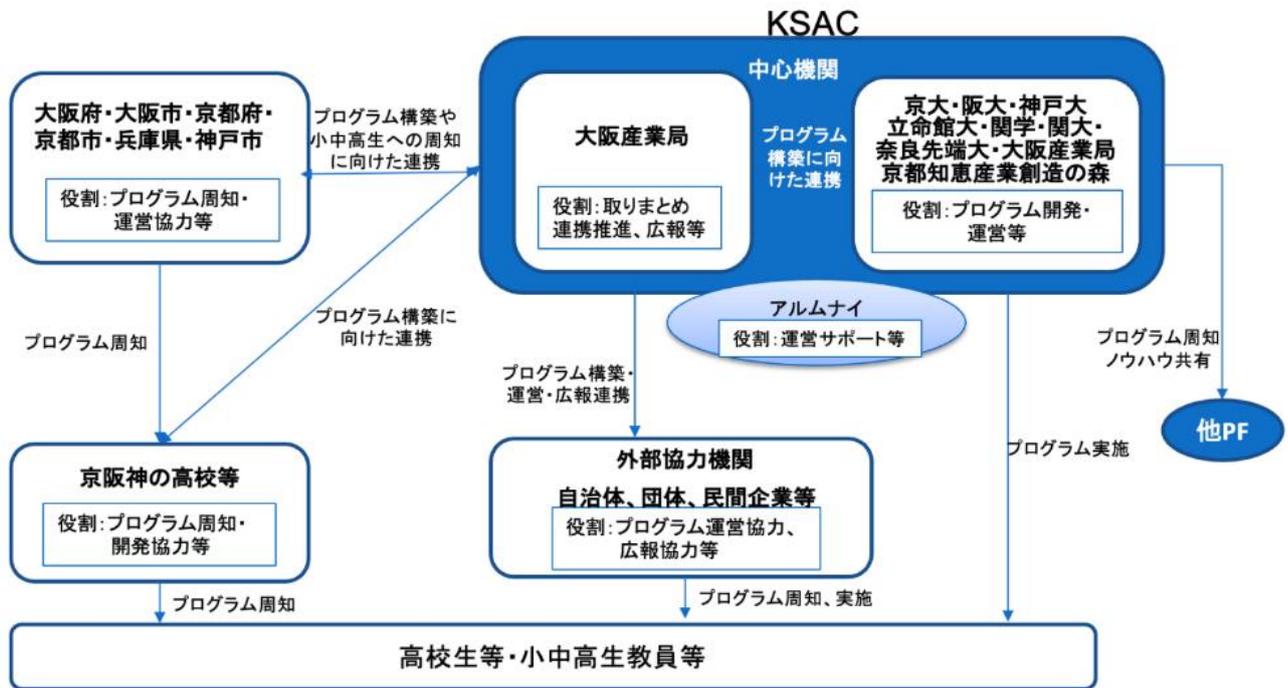
## 2. 高校生等へ提供するアントレプレナーシップ教育プログラムの開発・運営

本事業において高校生等へ提供したプログラムは、**フロンティア開発人材プログラム**として、2大学/7件、**アントレプレナー人材プログラム**として、4大学/11件、**新規事業創出人材プログラム**として、3大学/7件、共通プログラムとして、3大学/3件のプログラムをそれぞれ実施し、合計28件のプログラム、延べ3,380名の高校生等が受講した。また、開発・運営したプログラムの振り返り、課題抽出等といったプログラム改善のためのPDCAを回す取組みとして、参画機関が集まる進捗報告会を定期的実施。全国でアントレプレナーシップ教育、デジタル部活関連の普及に努められている、京都精華大学の鹿野教授にご協力いただき、専門的な知見からアドバイスをいただいた。

## 3. 高校生等へ持続的にアントレプレナーシップ教育プログラムを提供する体制の構築

下記の図のような体制を構築し、本取り組みを行った。自治体に関しては、教育委員会等を巻き込みつつ、主にプログラムの周知に協力いただき、外部協力機関としては、教育関連の団体や民間企業とプログラム設計や講師としての参画等にて運営サポートに協力いただいた。アルムナイについては、今後継続して関係性を構築していく。

また、他のプラットフォームとの連携については、プログラム周知協力はもとより、取組みの出口となるイベント、「KSACアントレプレナーズデイ」において、GTIE及びTongaliからもセッションへの登壇やポスター展示に参加いただき、それぞれの取り組みの発信や情報交換を行った。



また、高校生等へプログラムを提供するにあたり、希望する協力者(アントレプレナーシップ教育を受講した大学生、起業家および大学・高校等の教職員等)への必要な研修の実施や、協力者の人材プールの構築といった協力体制の整備を進めるべく、探究科目などの教育課程内においてアントレプレナーシップ教育が推進できるよう、教職員を対象に、アントレプレナーシップの概念や必要性及び教育に関する研修(ワークショップ)を開催した。

加えて、本事業の連携機関であるデジタル人材共創連盟にて、文部科学省が提供している「2021年度\_情報関係人材の活用促進に向けた指導モデル及び研修カリキュラムの手引き」を基盤にした、研修プログラムを準備しているため、この研修をアントレプレナーシップ教育用にアレンジし、企業等の学校関係者以外の者が、学校の活動に参加するにあたっての基礎知識やモラル、教員との連携等について学ぶ研修会を実施した。

#### 4. 本取組に関する広報・イベント等の実施

KSACでは、現在、大学生に対する起業やアントレプレナーシップマインドを醸成するためのウェブサイト「DOON！」と「DOON！起業」を運営しているが、新たに、本事業で整備するオンデマンドコンテンツや、高校生等が参加可能なイベント情報を掲載するDOON!Jr」を構築した。

「DOON!Jr」URL: <https://ksac.site/door-jr/>

また、関西地区の高校生等に対し、本事業で実施するプログラムの情報を発信するため、本事業の公式LINE「DOON!Jr」を立ち上げた。

これにより、メールアドレスがなくても公式LINE「DOON!Jr」の友達登録のみで、

情報を広く周知することができた。また、本事業以外にも、高校生等が参加できるアントレプレナーシップ関連イベント情報や、本事業で実施したイベントレポート、起業家の情報など、本事業に興味を持っていただくためのコンテンツを定期的に配信した。LINEの強みを活かし、個別チャットなどを通して気軽に起業の相談が受けられる仕組みを構築した。

イベントに関しては、ネットワーク構築イベントとして、本事業の認知度向上による受講生の獲得、教員等への周知、他機関との連携による事業拡大をめざし、キックオフとして「KSACアントレプレナーズキックオフシンポジウム」を開催した。本事業の取り組みについて紹介するとともに、起業家教育推進大使(当時名称)である株式会社ジズホールディングス 代表取締役CEO 田中 仁氏による基調講演や、中・高・大学にて、アントレプレナー教育や探究学習、デジタル人材育成等に力を入れているキーパーソンによる「これからの時代を生き抜くために必要な教育とは」をテーマとしたパネルセッションを実施した。

また、ノウハウ共有に向けたイベントとして、1年間の活動報告会や今後の取組みに向けた振り返りを行うとともに、ノウハウや課題を共有する場として、「KSACアントレプレナーズデイ」を実施した。本事業にて実施してきたアントレプレナーシップ教育プログラムの報告会や、関西以外のプラットフォームとしてGTIE及びTongaliのキーパーソンを交え、「日本のアントレプレナーシップ教育の現場から」をテーマとしたトークセッション、そして、様々なチャレンジをしてきた高校生が、自ら考えたビジネスアイデアやプロジェクトへの熱い想いを3分間で発表する「DOON!Pitch」等を実施した。



#### 5. プログラムの定着に向けた取組

##### ・KSAC起業相談窓口の活用

参画大学の学生や研究者であれば無料で活用可能な「起業相談窓口」を運営し、相談内容に応じて専門家がオンラインで対応する仕組みとなっている。この相談窓口にて高校生の起業相談も受け入れができるよう体制を整えるとともに、公式LINE「DOON!Jr」からKSAC起業相談窓口の予約フォームへ飛べるようにするなど、高校生等も活用しやすい仕組みを構築した。

##### ・OIH Creative Studio(OCS)の活用

スタートアップ支援の拠点である「大阪イノベーションハブ(OIH)」に、OIH Creative Studioを設置し、学生や研究者がビジネスや製品、サービスを紹介する動画を制作等のための、撮影・編集・配信が可能な機器を整備している。この施設については、高校生等も利用可能であり、上記の起業相談窓口と合わせて活用することで、ビジネスアイデアの創出からアウトプットまでを行うことができる。

##### 今後の課題と対応方針

初年度ということで、高校生等を対象としたアントレプレナーシップ教育や、起業を志す高校生等に対する支援の仕組みは一定構築できたと考えるが、今後は実際に活用に繋がる周知を積極的に行っていくことが重要であると考えられる。

以上